

四国霊場歩き遍路の魅力語る 感動体験伝え、心得をアドバイス

とやま歩き遍路の会

空海ゆかりの四国霊場八十八箇所を徒歩で巡る「歩き遍路」の魅力を語り合う「あるき遍路を語る会」（代表世話人・高見貞徳アイペック会長）がこのほど開かれ、高見氏と交流のある県内の企業経営者のほか退職後のシニア世代、現役のビジネスマンなど約五十人が集まった。

十七年前から歩き遍路を開始した高見氏が、歩き遍路で得た貴重な体験を皆で共有しあうことで、一人でも多くの人にお遍路に興味を持ってもらおうとの目的で開催



された。

会では歩き遍路の概要の説明の後、県内の遍路経験者五人による体験報告が行われた。十七年前から歩き遍路を開始した高見氏は、八十八カ所を何回かに分けてまわる「区切り打ち」というやり方でお遍路を続けており、約十日間ずつ年に三回のペースで通っている。六巡を終え、現在七巡目に入っている。体験談では「何のためか」に遍路をするのかと言われても分からないが、いわば『四国病』とでもいうのか、無性に行きたくなる。心にたまっていた濁りが消え、気持ち前向きになる。必ずしも一巡する必要はないし、旅行に行くつもりでいいから、一度四国へ行ってお遍路の感覚を体験してほしい」と語った。

他の報告者からも、心のこもった御布施やお世話に感激して涙が出そうになった、という感想などが笑いを交えて報告された。参加者からは「宿の予約は必要か」、「服装や作法はどんなものか」などの質問も出され、経験者からは「予約しておいた方が賢明」、「新しい靴はある程度履き慣らして」、「杖や菅笠は重要」などのアドバイスをしていた。